

古文書だより

第3号

もくじ

令和5年度新収蔵資料

高田茂廣収集資料(前田文書一) ……2

遠藤栄雅資料(四) ……3

高宮貝島本家資料(追加分四) ……3

収蔵資料の詳細目録

東長寺文書(五) ……3

インフォメーション ……4

《伊丹資料》にスポットライト

パネル展示「農業全書と宮崎開き

一語り継がれる宮崎安貞の功績」

みやざきけでんらい のうぎょうぜんしよ
宮崎家伝来「農業全書」

宮崎安貞翁顕彰会所蔵、当館寄託
(福岡県指定文化財)

徳川光圀が「これは人の世に一日たりともなくてはすまされない書物である」と絶賛した「農業全書」。日本で初めて刊行された農書として、広く全国へ流布しました。



令和5年度データベース公開資料

ホームページの「収藏品データベース」で新たに目録検索できるようになった古文書資料です。資料は原則として、当館2階の文書資料室で、マイクロフィルム等によって閲覧、複写できます。

■令和5年度新収蔵資料

- 〈寄贈資料〉
- 高田茂廣収集資料(前田文書一) 247点
- 遠藤栄雅資料(四) 356点
- 高宮貝島本家資料(追加分四) 5点
- 〈マイクロフィルム収集資料〉
- 益富資料 283点

■収蔵資料の詳細目録

- 〈マイクロフィルム収集資料〉
- 東長寺文書(五) 539点

「認証アーキビスト」とは？
 アーカイブズで働く専門職員を「アーキビスト」といいます。特に「認証アーキビスト」は、専門的知識や技能、高い調査研究能力、豊富な実務経験などについて審査を受け、国立公文書館長による認証を受けています。



ホームページ
「収藏品データベース」



ホームページ
「文書資料室」

福岡市総合図書館は平成8年(1996)6月に開館し、間もなく29年目を迎えます。なかでも、文書資料部門は福岡市の文書館(アーカイブズ)として、地域の歴史の情報資源となる古文書や歴史的・文化的価値をもつ公文書等を収集、整理、保存して次の世代へ伝えるとともに、利用者のみならずへ資料や情報の提供を行っています。古文書資料は認証アーキビスト3名が担当し、令和5年度末までに約8万5千9百点を収蔵しています。ご利用方法など、詳しくは当館ホームページの「文書資料室」をご覧ください。

令和5年度 新収蔵資料

〈寄贈資料〉

高田茂廣収集資料(前田文書一)

高田茂廣氏(たかた しげひろ、1928〜2009)は、現在の福岡市早良区西新に生まれ、市内の小学校に教員として三十数年、その後、中央区天神にあった福岡市歴史資料館(現在の福岡市赤煉瓦文化館)に嘱託として勤務しました。働きながら近世の海事史研究を生涯のテーマとし、海事史・郷土史研究者として活躍しました。また高田氏は研究過程で出会った多くの歴史資料を、誰もが利用できるようにと、公共機関で公開する道へと繋がりました。同氏によって掘り起こされ、現在までに当館で公開された資料は令和5年度の前田文書(一)も含め、7564点に上ります。



博多湾の西部に位置する五ヶ浦
 「鴻都vol.36」(福岡市、1998)3頁から転載。

約250点からなる前田文書は、能古島(このしま、福岡市西区)の前田家に伝わりました。前田家は廻船業に従事し、文政年間(1818〜1830)には廻船頭取を務めました。高田氏は前田文書によって当時まだ名称しか解っていない

た「筑前五ヶ浦廻船」(ちくぜんごかうらかいせん)の場所やその活動を明らかにしました。同氏の研究により、博多湾内の能古、今津(いまづ)、浜崎(はまさき)、宮浦(みやのうら)、唐泊(からどまり)の五つの浦で組織された、大規模な廻船集団を五ヶ浦廻船といい、それは、慶長年間(1596〜1615)黒田長政(くろだながまさ)の時代に始まった等々多くのことが解明されました。五ヶ浦の船乗り達は千石を超える大型船に乗り込み、福岡藩の年貢米を大坂へ輸送したり、幕府や全国諸藩の物資を扱うなど、その活動は北海道まで及んでいました。五ヶ浦が湾内の西側に位置するのは、西部海域の水深が比較的深いため、大型廻船の停泊等に適していたからだと考えられています。その後、海難事故が続いたこともあり、五ヶ浦廻船は徐々に衰退していききました。

(重久)



ごかうらかいせんかたきろく
 A63 五ヶ浦廻船方記録

「五ヶ浦廻船」について江戸時代後期に書かれたもの。高田氏はこの資料に出会い、『筑前五ヶ浦廻船』(西日本新聞社、1976)を出版しました。



博多財産備荒貯蓄起原沿革記

遠藤甚蔵(1853~1937)によって付箋(ふせん)が付けられていました。

福岡市博多区下呉服町の豎町筋(たてちようすじ)に江戸時代から続く遠藤家があります。平成17年(2005)の福岡県西方沖地震で同家の土蔵が被災し、中にあった様々なものを図書館に移しました。そのうち令和5年度は、博多財産区会に関する資料97点を含む、356点を公開しました。博多財産区会は、この地域で以前から所有してきた財産の維持管理等を目的とし、明治22年(1889)の市制施行直後に組織され、大正15年(1922)まで活動しました。五代目遠藤甚蔵(じんぞう)がまとめた「博多財産区備荒貯蓄起原沿革記」によれば、その起源は文政13年(1830)に博多町人8名が町役所に米を寄付したことにさかのぼります。集まった米は櫛田神社の倉庫に保管され、飢饉や災害時に使われました。甚蔵は福岡市会議員等を務めながら博多財産区会議員も務め、地域の困窮者救済に尽力しました。(重久)

遠藤栄雅資料(四)

えんどうよしませ

高宮貝島本家資料とは、貝島炭鉱の創始者である貝島太助(たすけ)の末弟・嘉蔵(かぞう)家に伝来した資料群です。貝島家は、明治・大正・昭和時代を通じて炭鉱業に従事し、その成功により地方財閥としての地位を築き上げました。「洋行日記」は、貝島健次(けんじ)、1880~1953)が、弟太市(たいち)と共に明治40年(1907)から明治42年にかけて、欧米を遊学した際の日記です。健次は太助の三男でしたが、嘉蔵の養子となり、高宮貝島本家を継いだ人物です。全6冊伝存している「洋行日記」は、3冊目のみ先に公開していましたが(『平成28年度古文書資料目録22』高宮貝島本家資料(追加分三)資料番号15)、令和5年度から全冊の公開を開始しました。(鈴木)

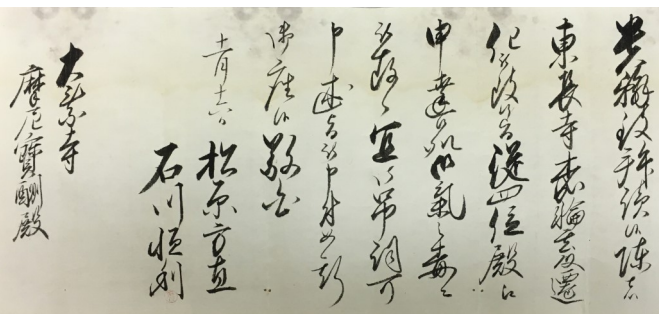


ようこうにっき 洋行日記 1、2、4~6冊目:(追加分四) A1~A5 3冊目:(追加分三) 15

左下の最も小さなメモ帳タイプの日記は、日本から持参した1冊目のもの。アメリカへ渡航する船の中でこの日記を書いていた様子が分かります。2冊目以降は現地で購入したもののようです。カラフルな表紙のノートもあります。

高宮貝島本家資料(追加分四)

たかみやかいじまほんけ



くろだながともかじゅうしよかん A3099-11 黒田長知家従書簡



東長寺の福岡藩主黒田家墓所(市指定史跡)

明治時代、東京に居住する旧福岡藩主黒田家から、博多の大乗寺(だいじょうじ)の摩尼宝洲(まにほうしゅう)へ宛てた手紙。東長寺第44世住持・森輪玄(もりりんげん)の訃報について、最後の殿様・黒田長知の弔意を伝えています。この後、宝洲は東長寺の第45世住持となります。

もっと詳しく

ホームページ「古文書資料紹介」



真言宗別格本山東長寺(とうちようじ)、福岡市博多区御供所町)は、江戸時代、福岡藩第二代藩主黒田忠之(くろだただゆき)の篤い信仰を受け、藩主黒田家の菩提寺としても興隆しました。この東長寺が所蔵する古文書群を東長寺文書とといいます。当館は東長寺文書をマイクロフィルムによって収集、公開し、今も調査を継続中です。令和5年度は東長寺文書(五)に539点の詳細目録を加えました。明治時代の東長寺と黒田家との関係をかかえる資料などもみられます。(三角)

収蔵資料の詳細目録

へマイクロフィルム収集資料

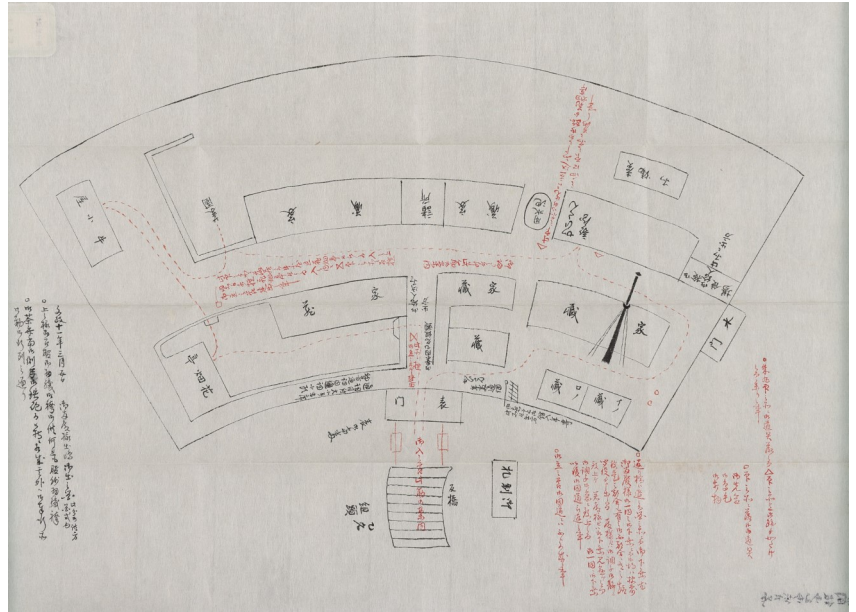
東長寺文書(五)

「伊丹資料」にスポットライト

■伊丹資料(『平成7年度古文書資料目録1』寄贈資料)は、江戸時代、福岡藩に仕える武士であった伊丹家に伝来した、質・量ともに豊富な資料群です。

■令和5年はシーボルト来日200周年にあたり、長崎歴史文化博物館の企画展「シーボルト来日200周年記念大シーボルト展」(会期 令和5年9月30日～11月12日)において、伊丹資料のうち3点が展示されました。

■右の絵図は、文政11年(1828)に福岡藩の殿様たちが長崎・出島のシーボルトを訪問した時の、出島の様子を描いたものです。



伊丹資料A543 蘭館御出御供方図

もっと大きく

ホームページ「収藏品データベース」



パネル展示「農業全書と宮崎開き—語り継がれる宮崎安貞の功績」



右)「農業全書 卷之一」 「農事総論」
左)「農業全書 卷之二」 「五穀之類」

■令和5年は宮崎安貞の生誕400年にあたりました。宮崎安貞は、日本で出版された最初の本格的な農書である「農業全書」の著者として有名な人物です。当館に寄託されている宮崎家伝来「農業全書」(『平成15年度古文書資料目録9』寄託資料)は、宮崎家に伝来し、宮崎安貞翁顕彰会が所蔵するもので、昭和40年(1965)に福岡県指定文化財となりました。

■令和5年7月～10月、当館2階の文書資料室で、パネル展示「農業全書と宮崎開き—語り継がれる宮崎安貞の功績」を開催しました。

■宮崎安貞は、志摩郡女原村(しまぐん みようばるむら、現在の福岡市西区女原)に定住し、自ら農業に従事したと伝えられています。彼が開発したとされる新田は、後世に「宮崎開き」と呼ばれます。「農業全書」は元禄10年(1697)に出版されましたが、安貞は刊行を見届けることなく、同年7月23日にその生涯を閉じました。彼の死後も「農業全書」は高く評価され続け、江戸時代に何度も再版されただけでなく、明治期以降も刊行され続けました。「宮崎開き」の存在は、今も地元の人々に語り継がれています。

もっと詳しく



宮崎安貞書斎・墓
(県指定史跡) 福岡市西区女原

ホームページ「古文書資料紹介」



古文書だより 第3号 発行日 令和6年(2024)3月31日

編集・発行 福岡市総合図書館 文学・映像課 古文書係
〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

TEL 092-852-0634 FAX 092-852-0609 URL <https://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/>

編集後記 毎号ご好評の「古文書だより」。ますます多くの方々に興味を持ってもらえますように。
(三角)

本誌に掲載の画像は無断転載を禁じます。ご利用方法は

「古文書だより」の最新号やバックナンバーはこちら

ホームページ「文書資料室」



ホームページ「古文書だより」

